

平成24年度  
(第3 / 3回)

(集団研修)

持続的農村開発のための畜産振興

実施要領

平成24年6月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)  
Japan International Cooperation Agency

## 目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	6

### 参考資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 研修日程（暫定）
- 付表－3 年度別受入実績表

## 1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：(集団研修) 持続的農村開発のための畜産振興

英文：Group Training Program on “Animal Agriculture for Sustainable Rural Development”

(2) 受入期間

平成 24 年 7 月 12 日 (木) ～ 9 月 15 日 (土)

(3) 技術研修期間

平成 24 年 7 月 21 日 (木) ～ 9 月 14 日 (金)

(4) 受入人数、割当国

受入人数：12 名

割当国：インドネシア, マラウイ, ミャンマー, ネパール, パキスタン, パラグアイ, タイ,  
ウルグアイ, ザンビア, ジンバブエ (下線は受入国)

(5) 研修類型：課題解決促進型

(6) 使用言語：英語

(7) 関係省庁：文部科学省

## 2. 案件の背景・目的

多くの途上国の農村では家畜飼養が生計の一部として組み込まれており、家畜は、乳肉の供給、農作物用の肥料、緊急時の糧として生計を支えている。畜産を振興する途上国において食料の生産性向上を図るためには、家畜生産・加工技術の向上、疾病対策の強化、インフラ整備等解決しなければならない共通な課題は多い。しかし一方で、途上国の農村では、飼料不足、不適切な家畜飼養管理、畜産物の劣悪な品質管理状況、脆弱な加工流通システム、天災の影響、経済低迷等の諸要因が複雑に絡み合っており、食料の生産性が確保されない状況にある。

本案件では、持続可能な農村開発により食料の生産性向上を図るために、各途上国にお

いて状況が異なる「畜産を取り巻く様々な環境」に対応した適切な畜産改善計画が策定されることを目的としている。

### 3. 案件目標

畜産振興を担う組織において、持続的農村開発のための改善計画の方向性が整理される。

### 4. 単元目標

- (1) バランスが取れた畜産改善計画の方向性を検討するために、農村や農業の発展の観点を取り入れ、インセプションレポートにおける分析結果が再整理される。
- (2) 問題解決・生産性向上に向けた適正レベルの家畜生産技術が整理される。
- (3) 農畜産物・副産物の適切な利用、加工、流通を通して農村生活を改善するための方策が整理される。
- (4) 北海道・十勝の農畜産業と関連産業の視察、技術研修を通して、自国への技術導入・活用の可能性が整理される。
- (5) 自国における農畜産業の持続的発展のための問題解決・改善の方向性が示される。

### 5. 研修成果品

#### ア) 本邦研修実施前

「初期報告書 (Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

#### イ) 本邦研修終了時

「中間報告書 (Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に自国の畜産振興計画(案)を作成し、コース終盤に発表する。

#### ウ) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

まず帰国後3か月以内に素案を提出し、当該素案に対して JICA より必要な助言を加えた上で、最終的にはその3か月後に研修員の所属組織に承認された最終報告書を提出する。

## 6. 研修員参加資格要件

(募集要項記載条件)

- ア. 畜産振興を担う行政機関・研究所・酪農協などの非営利組織の主任クラス、大学の講師クラス以上の者。
- イ. 畜産に関する技術開発・政策立案について3年以上の経験を有する者。
- ウ. 畜産振興に係る計画を企画・立案または提言できる立場にある者。

(各案件共通資格要件)

- エ. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。
- オ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。
- カ. TOEFL iBT 72 点 (CBT 200 点/PBT 533 点) 以上に相当する英語能力を有すること。
- キ. 心身ともに健康なこと。
- ク. 軍に属していないこと。

## 7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構北海道国際センター（帯広）が計画するコースの実施に関する業務を国立大学法人帯広畜産大学に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、研修監理員を1名配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) 北海道国際センター（帯広）

- ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間など）
- イ. 評価

ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成 等

(2) 帯広畜産大学

ア. 日程表の調整・作成

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言 等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳 等

## 8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、帯広畜産大学等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌

年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

## 9. 研修付帯プログラム

### (1) ブリーフィング

来日直後に北海道国際センター（帯広）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

#### 付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
7月13日（金）	ブリーフィング

## 10. 主な宿泊場所

JICA 北海道国際センター（帯広）

所在地：〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

## 11. その他

### (1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

### (2) 研修員の待遇

#### ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

#### イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

### (3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上



独立行政法人国際協力機構 北海道国際センター（帯広）  
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2  
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250  
ホームページ : [www.jica.go.jp/obihiro/](http://www.jica.go.jp/obihiro/)  
メール : [jicaobic@jica.go.jp](mailto:jicaobic@jica.go.jp)

平成24年度（集団）「持続的農村開発のための畜産振興」コース日程表（暫定）

日付	形態	研修内容	講師又は見学先担当者等		研修場所
			氏名	所属先及び職位	
7/12(木)		来日			
7/13(金)		ブリーフィング		JICA帯広	OBIC
		日本語講習		JICA帯広	OBIC
7/14(土)		休日			
7/15(日)		休日			
7/16(月)		休日			
7/17(火)		ジェネラルオリエンテーション		JICA帯広	OBIC
		日本語講習		JICA帯広	OBIC
7/18(水)		ジェネラルオリエンテーション		JICA帯広	OBIC
		日本語講習		JICA帯広	OBIC
7/19(木)		市長表敬		帯広市役所親善交流課	帯広市役所
		開講式		帯広畜産大学	帯広畜産大学
	発表	インセプションレポート発表会		帯広畜産大学	帯広畜産大学
		PC講習		JICA帯広	OBIC
7/20(金)	講義	コースオリエンテーション	手塚雅文/ 小崎浩	帯広畜産大学 教授	帯広畜産大学
		PC講習		JICA帯広	OBIC
7/21(土)		休日			
7/22(日)		休日			
7/23(月)	実習	問題分析W/S		アイシーネット（株）	帯広畜産大学
		PC講習		JICA帯広	OBIC
7/24(火)	実習	問題分析W/S		アイシーネット（株）	帯広畜産大学
7/25(水)	実習	問題分析W/S		アイシーネット（株）	帯広畜産大学
7/26(木)	講義	持続的農村開発と畜産の役割1	仙北谷康	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	講義	世界情勢と地域農業	仙北谷康	帯広畜産大学	帯広畜産大学
7/27(金)	講義	日本の農畜産業：過去、現在、未来	耕野拓一	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	講義	持続的農村開発と畜産の役割2	門平睦代	帯広畜産大学	帯広畜産大学
7/28(土)		休日			
7/29(日)		休日			
7/30(月)	講義	総合的な酪農振興計画	手塚雅文	帯広畜産大学 教授	帯広畜産大学
	講義	適正品種とは	手塚雅文	帯広畜産大学 教授	帯広畜産大学
7/31(火)	講義	品種改良への様々なアプローチ（後代検定と群検定）	鈴木三義	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	講義	改良のための人工授精・ET	明見好信	帯広畜産大学	帯広畜産大学

8/1(水)	講義	繁殖効率を向上するためには(発情発見、人工授精の留意点)	松井基純	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	実習	精液の取扱実習+問題点把握演習	手塚雅文	帯広畜産大学 教授	帯広畜産大学
8/2(木)	講義	受精卵移植サービス	松崎重範	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	講義	到達目標に関するディスカッション	手塚雅文	帯広畜産大学 教授	帯広畜産大学
8/3(金)	講義	視察用講義			
	見学	農家視察			
8/4(土)		休日			
8/5(日)		休日			
8/6(月)	講義	生態系・環境との共存	門平睦代	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	講義	伝染病と疫学	門平睦代	帯広畜産大学	帯広畜産大学
8/7(火)	講義	口蹄疫対策	高橋良平	十勝農協連	帯広畜産大学
	実習				十勝家畜保健衛生所
8/8(水)	見学	堆肥の作り方	岸本正	帯広畜産大学	十勝牧場堆肥センター
	講義	糞尿の活用法	岸本正	帯広畜産大学	帯広畜産大学
8/9(木)	講義	牛乳生産の衛生管理	木田克弥	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	実習				
8/10(金)	講義	生産性向上のための家畜管理	瀬尾哲也	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	実習	到達目標に関するディスカッション	門平睦代	帯広畜産大学	帯広畜産大学
8/11(土)		休日			
8/12(日)		休日			
8/13(月)	講義	乳牛の飼養管理コンサルタント	武中慎治	帯広畜産大学	
	見学	農家視察			
8/14(火)	講義	家畜の栄養状態の把握 (BCS)	木田克弥	帯広畜産大学	
	実習				
8/15(水)	講義	副産物の利用	花田正明	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	実習				
8/16(木)	講義	暖地型牧草の利用	川本康博	帯広畜産大学	帯広畜産大学
8/17(金)	講義	サイレージの調製と飼料給与法	河合正人	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	実習				
8/18(土)		休日			
8/19(日)		休日			
8/20(月)	講義	村落レベルでの普及活動	門平睦代	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	実習				
8/21(火)	講義	家畜の栄養(途上国における諸問題)	西田 武弘	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	実習				
8/22(水)	講義	到達目標に関するディスカッション	西田 武弘	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	実習	農家視察			
8/23(木)	実習	インテリムレポート作成指導	手塚雅文/ 小崎浩	帯広畜産大学 教授	帯広畜産大学

付表－2

8/24(金)	講義	農協の組織と機能	仙北谷康	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	見学	農協視察	仙北谷康	帯広畜産大学	JA川西orJA士幌町
8/25(土)		休日			
8/26(日)		休日			
8/27(月)	講義	牛乳の品質管理(集乳から製品まで)	西部潤	十勝農協連	畜産検査センター
	実習				
8/28(火)	講義	牛乳・乳製品の流通-集乳・加工・流通-	仙北谷康	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	見学	牛乳・乳製品の流通-集乳・加工・流通-	仙北谷康	よつ葉十勝主管工場	よつ葉十勝主管工場
8/29(水)	見学	畜産物の自家生産と販売(更別)		更別チーズ工房	更別チーズ工房
	見学	畜産物の自家生産と販売(大樹)		源ファーム	源ファーム
8/30(木)	講義	家畜共済制度と機能	耕野拓一	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	見学	家畜共済制度と機能	杉山仁志	NOSAI北西部事業所	NOSAI北西部事業所
8/31(金)		学校訪問			
9/1(土)		休日			
9/2(日)		休日			
9/3(月)	講義	バイオガス-小規模プラント、ジェネレーターの活用、途上国の事例にふれて-	梅津一孝	帯広畜産大学	帯広畜産大学
	講義	到達目標に関するディスカッション	仙北谷康	帯広畜産大学	帯広畜産大学
9/4(火)	見学	十勝千年の森	瀧川隆博	十勝千年の森	十勝千年の森
		移動(帯広→札幌)			
9/5(水)	見学	独立行政法人農業・食品技術総合研究機構 北海道農業研究センター(札幌)	森敦子	独立行政法人農業・食品技術総合研究機構 北海道農業研究センター(札幌) 企画管理部業務推進室企画チーム	独立行政法人農業・食品技術総合研究機構 北海道農業研究センター(札幌)
	講義	酪農学園大学	林多喜夫/ 堂地修	酪農学園大学	酪農学園大学
9/6(木)	見学	雪印メグミルク酪農と乳の歴史館		雪印メグミルク酪農と乳の歴史館	雪印メグミルク酪農と乳の歴史館
9/7(金)	見学	北海道開拓歴史館		北海道開拓歴史館	北海道開拓歴史館
9/8(土)		移動(札幌→帯広)			
9/9(日)		休日			
9/10(月)	講義	インテリムレポート作成指導	手塚雅文/ 小崎浩	帯広畜産大学 教授	OBIC
9/11(火)	講義	インテリムレポート作成指導	手塚雅文/ 小崎浩	帯広畜産大学 教授	OBIC
9/12(水)	講義	インテリムレポート作成指導	手塚雅文/ 小崎浩	帯広畜産大学 教授	OBIC
9/13(木)		インテリムレポート発表会リハーサル/準備		JICA帯広	OBIC
		評価会		JICA帯広	OBIC
9/14(金)	発表	インテリムレポート発表会		帯広畜産大学	帯広畜産大学
		閉講式		帯広畜産大学	帯広畜産大学
		閉講パーティ		帯広畜産大学	帯広畜産大学
9/15(土)		帰国			

## 年度別受入実績表

### 1. 応募／選定（受入）人数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	累計
応募数	14名	13名	19名	46名
受入数	9名	12名	12名	33名

### 2. 国別受入人数

○男性 ●女性

国名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	累計
(アジア全域)				
ミャンマー		○	○	2名
インドネシア	○	○	○	3名
タイ	○	○	○	3名
ネパール	○○	○○	○○	6名
パキスタン		○	○	2名
(アフリカ地域)				
マラウイ		○○○	●○	5名
ザンビア		○	○	2名
ジンバブエ	○	○	○	3名
(北米/中南米地域)				
ウルグアイ		○		1名
パラグアイ	●●		●○	4名
(大洋州地域)				
フィジー	○○			2名
合計	6カ国 9名	9カ国 12名	9カ国 12名	11カ国 33名